

Title	惜しき松山先生
Author(s)	太田, 勘兵衛
Citation	懐徳. 1927, 6, p. 106-107
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/88771
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

惜しき松山先生

まねの出来ない御人格

太田勲兵衛

直立不動の御姿勢で謹嚴一方の先生、何日も温容を以て我等聽講生を導いて下されたが、大きな笑ひ顔は見た事がない、同輩の○君と私、或る日の一日一ツ松山先生を笑はしてやらうと云ふ茶目式、所が中々問題にぶつからない、ぶつかつても矢張不動じや、敗北々々。

或る時此間永田様へ東京の確か渡邊様とか申す人が永田様の像型の下像を探りに来て居られて、丁度出来上つた時に私が参り合せたので、永田様は應接室の机上にある御自分の胸像厚型に對し、永田仁助様じや、好く似て居ると申されて笑つて、私に一ツトウーヤ似て居るかど申されたので拜見も致し永田様と見くらべて居た、今日の今まで知

りませなんだ永田様の耳朶が左右大層大小の相違がありますのを拜見しまして私が大聲で、永田様アナタの耳朶はチンバですなーと申しましたら永田様はコチラで集めてコチラで散するのかなーと大笑されましたと松山先生の前でお話しを致しました時に、松山先生は大聲で笑はれました、ソレデも謹嚴な口調で君の様な無茶な男はない今日の永田様に面ん向つてアナタの耳朶はチンバですなーと申す様な無作法な事は申すものでない敬意を無くしてはならぬと申されました。

先生の御謹嚴と私の無作法とは非常の違ひらしいと見へて、無茶な男だと大層お笑ひにありました。

次は今度御大患中の事卅八度以上の高熱が十日
餘りも持續致しますのに少しも御苦痛を仰せられ
ぬので或日、先生、先生は普通の人間とツクネ型
か違ひますのと御修養の爲にコンナ時には又普通
人とは違ひますものですなどと申上りました時仰臥の
御顔面に微笑を浮べられ、お褒めに預り痛み入る、
と申された。

此おほめに預り痛み入るが、謹嚴一途の先生のお
口より出ましたのが到々聞きをさめで、又謹嚴な
一途を少しわやにしたる様に覺へましたが矢張謹
嚴な先生でした。

永田理事長を憶ふ

十二三年前の事、大正天皇御即位の大典を京都
に擧げさせられ、大阪は全市をあげて踊り廻つて

永田理事長を憶ふ

五月廿日午前鳥瀉病院の御一室で謹嚴其のも
の、様な口調懷徳堂段上御講義の時と少しも變
らない音調で、眉目一つ動かぬ普通の態度で懷
徳堂の諸彦には非常に厄介に相成つた、實に徹
底せる親切有難くて涙コボル、有難いと此御言
葉が先生より賜りたる最後のもので有つた。
ドコまでも謹嚴な先生で有つた多年御講義を拜
聽して居りましたが導て頂いても

まねも出来ない御人格

(二一、六、二八)

音代節雄

ゐた前後の年である。高津溝の側の永田さんの
貸家をお借りしてゐたとき、豊田さんの令嬢が